

活動名	団体名 ドリームスクール実行委員会
子どもドリームスクール2010	地域 山口県周南市
	代表者 実行委員長 中田 智加江
	支援金額 27万円
活動概要	
<p>しゅうなん子どもドリームスクール2010 in 近鉄松下</p> <p>様々な知識を持つ地域の大人が指導者になり、子どもと共にものづくり体験や職業体験を実施し、子どもたちのものづくりや職業に対する好奇心を深め、地域の中で子どもを育てる運動を実践する。</p> <p>また、空洞化が進む中心商店街の拠点でもある近鉄松下百貨店で実施することで、子どもで賑わう商店街にも寄与する。</p>	
<p>◆実施時期 平成22年8月12日(木)から8月17日(火) 10時から15時30分 近鉄松下百貨店6階催会場</p> <p>◆参加人数 8/12(木):135名 8/13(金):274名 8/14(土):209名 8/15(日):195名 8/16(月):245名 8/17(火):242名</p>	
参加総人員(延べ)1,300名	



しゅうなん子どもドリームスクール2010
in 近鉄松下 活動の様子(全体風景)



身を乗り出してマジックを学ぶ参加者



大人気のちびっこ調剤薬局(薬剤師体験)



地域の大人から学ぶ子どもたち
(ビーズでアクセサリー作り)

◆実施に伴う効果

近鉄松下百貨店という商店街の拠点施設内の催会場を市民活動グループが使用するのは今回が初のケースであったため、近鉄松下だけでなく、地元商店街や商工会議所、マスコミから注目された。

お盆期間中ということ、幼児から小学生とその親の世代は、百貨店が今までターゲットとしてきた客層とは違うことなど不安要素もあったが、結果的には、予想を上回る参加者が来場した。

参加した子どもや親からは、来年もやってほしい。楽しかったという感想が多く、指導者として活動に係わった地域の方々ともに満足度が高く、継続して実施したいということであった。

また、指導者として登録したい、ボランティアとして参加したいという市民の問い合わせもあり、初めての企画としては、大きな反響があった。

◆苦労した点

予算的には、マツダ財団の支援金に頼る形になったが、近鉄松下百貨店より会場の無償提供及び新聞折込チラシでの周知PRに協力していただき、予算を最小限に抑えることができた。

また、マスコミ（テレビ、新聞）での報道も効果的で、周知度が増し、予想を上回る参加人数となった。（6日間で延べ1,300名参加）

苦労した点は特にないが、今後継続して実施するには、民間（松下百貨店）と市民が更に連携を深める必要があると感じた。

◆今後の課題・発展の方向性

(1) 今回の参加者層は、予想以上に年齢が低く、幼児から小学生低学年を中心であったため、家族単位での参加が多かった。今後の課題としては、体験プログラムの内容を幼児でもできるものや親子で体験できるものを検討する必要がある

(2) 運営の安定

今回は、材料費のみを実費徴収する方式としたが、今後は、運営費確保のため、各講座受講料を徴収するなど、継続的に実施できるような資金計画が課題である。

(3) 今回は近鉄松下百貨店を会場として実施したが、来年度は、商店街内の空き店舗なども活用し、商店街全体が子どものものづくり・職業体験会場となるように発展させたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今回マツダ財団の支援により、初めて商店街内でドリームスクールを実施することができ、感謝しています。ドリームスクールは、来年度、10年目という節目を迎えます。

今まで実施会場を市民館等の公共施設を借りて実施していたが、今回の試みで、商店街の中でも、楽しい企画をすれば、多くの子どもが参加することが実証された。

今後は、青少年の健全育成と地域の大きな課題でもある商店街の賑わい創出の両方に寄与できる市民活動へステップアップしていきたい。